

# 日本学術会議公開シンポジウム 第17回情報学シンポジウム

## 研究データ基盤の確立とその将来展望

日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

およびオンライン配信

参加無料



参加登録

7月5日（金）  
13:00-17:10

研究データ基盤の確立と発展は、科学研究において中核的な役割を果たしている。現代科学は、大規模なデータセットを扱うことが一般的となり、これらのデータの管理、保存、アクセス、再利用が研究成果の質を大きく左右する。しかしながら、効率的でセキュアな研究データ基盤の構築は多くの研究機関で未だ十分とは言えず、最新の技術が広く普及しているとは限らない。このシンポジウムでは、研究データ基盤の現状と課題を全体的に俯瞰し、データ管理技術、データセキュリティ、オープンサイエンスの推進、さらには我が国の研究力強化に向けた新しいアプローチを探求する。第1部では、文部科学省、米国 NSF、駐日欧州連合代表部等から講演者をお招きし、国内外の科学政策の戦略的なポイントとその最新動向について深い理解を得る機会を提供する。第2部では、研究データの管理・利活用の先端的な取り組みを紹介し、オープンサイエンスおよびデータ駆動型研究の推進に向けた将来的な展望について論じる。

13:00	司会 佐古 和恵 / 日本学術会議第三部会員、早稲田大学教授 開会挨拶 下條 真司 / 日本学術会議第三部会員、情報学委員会委員長、青森大学ソフトウェア情報学部教授
13:10-14:40	<b>第一部 研究データ基盤の戦略と政策</b> 「わが国のオープンサイエンス政策について」 国分 政秀 / 文部科学省研究振興局参事官（情報担当） 「Overview of US National Science Foundation Investments in Computing and Information Science and Engineering, and Artificial Intelligence」 Dilma Da Silva / 米国 NSF, Director, Division of Computer and Communication Foundations (CISE/CCF) 「Update on digital research and technology policies in the EU」 Lee Woolgar / 駐日欧州連合代表部 情報通信政策オフィサー 「日本の競争力強化に資する研究データ活用基盤整備」 江村 克己 / AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業推進委員会委員長、福島国際研究教育機構 理事
14:50-17:00	<b>第二部 オープンサイエンスとデータ駆動型研究に向けた研究データ基盤利活用の実践</b> 「複雑系数理モデル学で切り拓く未病研究—研究データ基盤利活用の観点から」 藤原 寛太郎 / 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構、特任准教授 「仮題：人文DXを指向する情報基盤の展望と課題 - 京都大学東南アジア地域研究研究所における経験から -」 原 正一郎 / 京都大学 東南アジア地域研究所連携教授 「地域における乳児股関節脱臼の見落としゼロを目指すコミュニケーションシステム開発とデータの利活用」 吉岡 京子 / 東京大学 大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻地域看護学分野准教授 <b>パネルディスカッション</b> 「オープンサイエンス/データ駆動型研究の推進に向けて—研究データ基盤の現状と課題を踏まえて—」 (司会&ファシリテーター) 永井 由佳里 / 日本学術会議第三部会員、北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長 (パネリスト) 林 和弘 / 科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長 小林 武彦 / 日本学術会議第二部会員、東京大学定量生命科学研究所教授 倉田 敬子 / 国立国会図書館長 西原 基夫 / 日本電気株式会社執行役 Corporate EVP 兼 CTO Dilma Da Silva / 米国 NSF, Acting Assistant Director of Directorate for CISE 田浦 健次郎 / 日本学術会議第三部会員、東京大学執行役・副学長・教授 Lee Woolgar / 駐日欧州連合代表部 情報通信政策オフィサー 山地 一禎 / 国立情報学研究所教授
17:00	閉会挨拶 黒橋 祐夫 / 日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所長